

など一番端的でしょうが、生産者は損をして飼料代にもならぬ価格で手離さなきゃならない。そんなに安い価格で手離したのに、消費者の手に入る時には、かなり高いですね。野菜にしても熊本県は全国有数の生産県ですから、その生産者と消費者を直結し、生活協同組合の発想で契約栽培でもやれば物価はもっと抑えられるかもしれない。簡単に考えればそうなんです。しかし、そういうやり方が徹底していけば、今まで永い間、社会経済の中で大きな役割を果たしてこられた八百屋さん、肉屋さんなどは、その存在価値がなくなってしまうわけです。大変な社会問題です。だから、一面からだけ考えられないですね。頭の痛い問題です。

### 適正な行政指導を

(山本) 物価対策に関してですが、新学期を前に県から文具関係の業界に値上げしない旨の協力要請をされたそうですね。こういうように、季節的な物や生活必需品については、今後もやってもいいと思います。

(知事) 一時、砂糖やチリ紙が店頭から姿を消したという異常な社会現象がありましたね。一時的なものにしろ、こういう現象の再発を抑えるために行政指導を徹底していくことが必要だと思います。

私の会社にも、東京あたりからUターンして働いている人達があります。確かに給与面では条件が悪くなっているかもしれませんが、彼等は、はつきり喜んでおります。

これは、熊本の良さが理解されてきているからではないかと思うわけです。

(知事) 今までの話とやや違いますが、ある進出企業の幹部の人が話すんですが、大阪あたりで働いていたスタッフが熊本に転勤してくるけれども、皆んな熊本からの転勤を嫌うと言っています。

それは、空気がきれいだし、緑はおいしい、仮りに物価は違わなくても、例えば魚ひとつにしても、東京や大阪あたりで同じ価格で買う魚と鮮度が、味が違う。野菜にしても新鮮であるわけです。ここに来ると太るといいますよ。私は、そういうことは喜ばしいことと思うんです。

我々はそのような土地に住んでいるんですから、熊本の良さというものを出来るだけ大事にしていく努力をしなければなりません。

人の健康とか、あるいは生活上の豊かさというのは金では買えないんだということを考えていただきたいですね。

### 変化する若者の意識

(大滝) 以前は優秀な人材が確かに中央に出ていましたが、現在、歯止めというか地元に残ってくれますので喜ばしい

ただ、価格体系にまで立ち入って強制力をもった措置を講じていくことはなかなか難しい問題ですが、生活行政、物産物産対策というのは重要な県行政の課題でもあるわけですから真剣に取り組みたいと思います。

(米ヶ田) 今、流通の問題で主婦の立場で福成さんからご意見がありました。物が高い安いという時にはひとつの基準というものがあつて。例えば、キャベツを作るのに、原価がいくらかかる、それに労働賃金がいくらかかるので最低いくらで売らないと生産者は食っていけないというようなひとつの基準で

## ◇ふるさと熊本の再認識を！

### 若者は郷土に残れ

(大滝) 一昨年、入社希望者の面接をして痛感したことなんです。県内には優秀な企業はないんだ。矢張り、中央に行かなければならないという認識が強いということなんです。

また、学校の職業指導の先生方の中にも、熊本の中小企業の実情を良く理解されていない方が多いようです。

若手労働力の県外流出にブレーキをかけ、若者達が郷土に残って、力を結集させるということは一番大切な問題であると思います。

県民皆んなが、今少し熊本の良さというものを理解して、熊本を良くしよう

す。

この基準をご存じなくして、高い安いというんはおかしいと思うのです。

消費者・生産者双方がお互いの立場を理解した上で話合いの場をもつならば、この流通問題にしても解決できることが沢山あると思うんです。

(知事) 話はちょっと違いますが、三角のミカンが全国で一番高い値段で取引されました。非常に嬉しいことです。品質のいいミカンを作ることに生産者は努力しています。いい作物をつければ結構高い値で取引されるんですね。農家の所得水準にもプラスになります。

いうムードを作っていきたいと思えますね。

### ふるさとのイメージ

(知事) 今度私が呼びかけました「新しいふるさと」というイメージは、結局自分達の生まれ故郷であり、育ってきたこの熊本のふさというものをお互いに再認識しようではないか。例えば、所得水準、日々のみらいという点からすれば、東京や大阪に劣るかもしれない。しかし、人間として生活をする、あるいは生き甲斐を感じる、そういう人間らしい生活をおくれるところは熊本なんだと。キャッチフレーズに言えば「貧しく

に皆んなで考えようではないかと言おうことです。

例えば、団地にいきなり祭りを持ってくるといことは無理でも、ソフトボール、バレーボールをやることはできる管です。遠足とかワラビ狩りのように子供達からお年寄りまで楽しめる行事を企画

## ◇連帯の輪を広げよう

(福成) 一ある日突然、主人が病気になる時の保障といいますが、そういう人は県下に多いと思うんです。いわゆる中間層にある人達の生活の保障という問題ですけれども。

(知事) それぞれの家庭の状況というものには千差万別でありますから、それにきめ細かに対処できるような今日の社会保障制度というものは整備されておられません。それでも、世帯更生資金制度なり生活保護制度というものもあるわけですから、それらを活用していただくという方法もありますし、職場の共済制度などもある管です。

また、それぞれの家庭にあつても、生活の設計というものに努力していただくことも必要だと思えます。

(福成) 一そういう時にこそ、知事さんのおっしゃる心のふれあいが大切ではないでしょうか。



▲お年寄りがいつも笑える社会を

### 老人は家庭でお世話を

(知事) 一最近、親子であっても、俺

すとか、そういうことも大事なことです。そういうことから少しづつ団地内の連帯感、融和というものが生まれてくると思えますよ。

そこに住んでいることが楽しくなるということが一番の基本ですよ。

＝福祉＝